

— 小児看護専門看護師の役割と活動 —

東京女子医科大学病院では、重症度の高いさまざまな疾患を抱える新生児期から青年期までの小児患者さんへ医療を提供しており、小児に特化したより専門的な知識や技術を要します。その中で、小児看護専門看護師は、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に対して、最善の利益が守られるよう、子どもと家族の力を引き出しながら成長・発達を見据えた看護を提供します。

現在、私は本院の東病棟5階外科系小児病棟に勤務しております。毎日子どもたちと関わる中で、子どもは常に成長発達している存在であり、どのような状況にあっても遊びたい、学びたい、人と関わりたい、たくさんを知りたいという気持ち・意思を持って1日1日を精一杯過ごしていることを感じます。しかし、子どもは言語や認知能力が未熟であり、上手く自分の思いを表現することはできません。また、疾患によっては自分の思いを他者に伝えることができない場合もあります。そして、その子どもたちを支える家族は、子どものことを考え、毎日



葛藤を抱えながら多くの愛情をもって子どもをサポートしています。それゆえ、子どもを支える家族だけに焦点が当たり、子どもが置き去りにされている事例に遭遇することもあります。さらに、虐待など目を背けたくくなるような事例と向き合わなければならないことも少なくありません。さまざまな葛藤の中で、私は子どもの権利を守るという視点を大切に子どもたちと関わっています。関連する専門職が子どもの最善を考え、子どもの権利が保障されるよう問題提起し、子どもの発達段階やこれまでの経験に応じた説明、子どもや家族の意思決定、自立を見据えた介入、遊びや学習の保障、療養環境調整など、一緒に検討します。その指針となる『東京女子医科大学病院子ども憲章』も作成しました。医療安全ポケットマニュアルにも掲載されておりますので、ぜひご覧になってください。

小児看護専門看護師は、健康障害をもつ子どもだけでなく、そのきょうだいである子ども、親や家族が病気という境遇にある子どもの支援も考えていきます。成人看護に携わる方は、子どもと関わる機会がないと感じられるかもしれませんが、成人患者さんにも大切にしているお子さんやお孫さんがいる場合は多いかと思えます。そのため、成人患者さんの病気をそのお子さんへどう説明したらいいか迷った際には一緒に考えていきたいと思えますのでお声がけください。また、幼少期からの疾患を抱えて成人に移行する患者さんも多くおり、年齢は成人に達しても多くの課題を抱えている場合があります。しかし、その課題は気づかれにくいことも多いため、幼少期から疾患を持つとはどういうことなのかを成人看護に携わる方々ともぜひ一緒に考える機会がありましたらうれしいです。



ベストサマリー賞を受賞しました

とうきょうじよし い か だいがくびょういん こ けんしやう
東京女子医科大学病院 子ども憲章

- あなたは、思いやりのある安全で良い医療を受けることができます
- あなたは、どのようなときでもひとりの人間として大切にされ、あなたの考えが守られます
- あなたは、苦しいときやつらいときも安心できるような支援を受けることができます
- あなたは、入院している間も家族と一緒に過ごすことができます
- あなたは、あなたにとって分かりやすい言葉や方法で、家族や病院の人からあなたの体や病状について説明を受けることができます
- あなたは、あなたの体や病状について十分に説明を受けた上で、自分の考えや気持ちや家族や病院の人に伝え、病状とたたかう方法を選ぶことができます
- あなたは、入院している間も退院した後も、多くの人からの支援を受けることができます
- あなたは、あなたの体や病状のことなど、いつでも秘密は守られます
- あなたは、入院している間も退院した後も、多くの人からの支援を受けることができます
- あなたは、入院している間も退院した後も、多くの人からの支援を受けることができます

感染症対策などで、病院長の指示にしたがい、変わることがあります
2023年1月 PCST病棟-小児看護プロジェクト

『東京女子医科大学病院子ども憲章』